

アレクサンダー・コ布林 ピアノ・リサイタル

今の世界に伝えたい メッセージを込めて

れる気持ちでした。ただ、心境は複雑でも問題はシンプルです。問われるべきは政策ではなく、戦争、つまり殺人の是非ですから、答えは明らかでしょう。そんな中、ロシア生まれの音楽家として意志を表明すべきというのが私の考えです.....もちろん今、私がロシアに戻ったらすぐ捕まるでしょうけれど」

その思いで選んだのは、ロシアに支配される祖国を思い続けたショパン、そしてムソルグスキーの「展覧会の絵」。「『キエフの大門』があるため演奏機会が増えていると思いますが、歴史に基づく象徴的な意味を理解している人は少ないでしょう。大昔、ロシアは正教を取り入れましたが、それはロシア最初の中心都市キエフ（キーウ）から始まりました。ウクライナは小さな国かもしれませんが、千年前のウクライナなしにロシアは存在しません。これを弾くことでその事実を思い出したいのです」

作品に向かう姿勢も、現状を思うと変わってくるという。「演奏することは単なるパフォーマンスではなく、人生をどう生きるかですから。大好きな浜離宮朝日ホールでみなさんにメッセージを伝えられることを嬉しく思います」

取材・文／高坂はる香(音楽ライター)

第一夜 オール・ベートーヴェン・プログラム

11/9(水) 19:00

ベートーヴェン：創作主題による 32の変奏曲
ピアノ・ソナタ第 21 番「ワルトシュタイン」
ピアノ・ソナタ第 22 番
ピアノ・ソナタ第 23 番「熱情」

第二夜 ショパン&展覧会の絵

11/11(金) 19:00

ショパン：幻想曲 へ短調 Op.49、子守歌 変ニ長調 Op.57
舟歌 嬰へ長調 Op.60、幻想ポロネーズ
ムソルグスキー：組曲「展覧会の絵」

各¥4,500 学生¥2,500 通し券¥8,000

©Alyona Vogelmann

モスクワに生まれ、ロシアの名教師のもとで学び、知性と高い技術に裏打ちされた演奏で若き日から注目されてきたアレクサンダー・コ布林。ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール優勝でキャリアを確かにした彼は、現在アメリカを拠点に活動。40代の成熟のときを迎え、近年はベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲演奏に取り組んでいる。

久々の来日となる今回は、浜離宮朝日ホールで二夜にわたるリサイタルを開催。第一夜ではオール・ベートーヴェン・プログラムを取り上げる。

「最近、ベートーヴェンの真の重要性をようやく理解できたと感じます。音楽が今のような芸術的価値と影響力を持つことは、彼なしには起き得ませんでした。その作品は宇宙のようで、ときを経て演奏するたびに新しい惑星を発見する喜びがあり、歳を重ねることが楽しくなります」(アレクサンダー・コ布林、以下同)

第二夜は趣向を変え、「ロシアのウクライナ侵攻を思っ

て選曲した」という。「父方の祖父母はウクライナで生まれ、母はポーランド人とロシア人の血を引いており、家族でロシア生まれは私一人です。侵攻開始の一報を聞いたときは人生が切り刻ま